

KSK

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

あゆみ会報

2023年11月号 第195号

編集 湘南あゆみ会
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内
TEL/FAX 0463-24-0420
定価 50円（会員は年会費に含まれています）

報告

平塚市福祉会館まつりに参加

今年の福祉会館まつりは10月20日（金）21日（土）の両日行われ、晴天に恵まれ、入場者数の制限もなく、大勢の入場者で賑わいました。

1日目の式典では、近くの幼稚園の園児達による歌とお遊戯の披露があり、その元気あふれる声で会場はいっぺんに明るい雰囲気となりました。またその後には会場の人々の後ろに立って、可愛い手で肩を叩いてくださり、思わぬサービスに皆さんから笑顔がこぼれました。全ての会場、廊下には会館を利用する団体の絵画・写真・絵手紙・編み物など多くの作品が展示され、3階の大会議室では、歌・踊り・カラオケなどの発表が行われ賑わいました。

私達の所属する平障連は、展示部門に8団体、販売部門に3団体、催し物部門に2団体が参加し、湘南あゆみ会は展示部門と販売部門に参加しました。展示部門には2名の当事者の方が力作絵画を出展して下さり、会場に芸術の香りを放ちました。販売部門は入り口ロビーで行われ、湘南あゆみ会の他に、育成会、平塚市視障協による手作り品の販売、作業所の作品販売、ベルカンパニーのうどん販売などがありました。

湘南あゆみ会はみどり農園で穫れたさつまいも、里芋、新米などを中心に、柿・ミカン、ネギ、カボチャ、なす、自然薯、三陸産の昆布・わかめなど10種類余の品物を販売し、1日目には販売開始時間の前からお客さんの列ができるほど賑わい、2日間で殆どの品物が完売しました。

両日の販売はもとより、畑での収穫作業、袋詰め作業等に総数30余名の方々の協力があり、お蔭様で、福祉会館まつりに賑わいを添えることがで

きました。また、今回は毎年絵画作品を出して下さる当事者の方が、自分の描いたイラスト集を皆さんにもらってほしいと熱心に声かけをする一場面もあり、皆さんに喜ばれました。

数年前までは当事者の方が販売に立ってくださった事もありましたが、ここ数年はなくなっています。当事者の方々にも参加していただき、啓発活動にももっと力を注いでいきたいものと思います。

会計報告は以下の通りです。

収入の部：	56,325円
内訳	・商品売上益 46,595円 (売上金額158,550円 －仕入れ金額111,955円)
	・寄付金 6,730円
	・平障連より補助金 3,000円
支出の部：	39,860円
内訳	・絵画出展者への謝礼 2,870円
	・商品運搬用車両代 8,000円
	・活動経費 28,990円 (交通費8,490円+活動費20,500円)
収益：(収入－支出)	16,465円



第49回『県民の集い』が開催されました

テーマ「ピアサポートの輪をひろげよう！ 仲間があなたを支えます」

基調講演 聖学院大学教授 相川章子氏

シンポジウム

シンポジスト

- ・秦野市ぱれっと・はだのピアサポーター
- ・相模原市精神障がい者仲間の会（あしたば会）
- ・自立サポートセンタースマイル（県西地域）
- ・おだわらピアステーション

11月11日（土） NPO 法人じんかれん主催の神奈川県精神障害者家族住民交流事業「県民の集い」が小田原市において開催されました。

会場の三の丸ホールは2年前に小田原市民会館の跡地に建てられた大小2つのホールを持つ立派な建物で、1階の広いロビーからはお城を眺めることができ、市民にも開放され、この日は小田原市精神保健福祉地域交流事業実行委員会による「おだわらハートフェスタ」が開かれていました。

今回の県民の集いは、ピアサポート活動への理解を深め、更に活動を普及させたい、との願いから、聖学院大学教授の相川章子氏の講演を聞き、現在活動を行っている4団体の方々に活動内容などを発表していただきました。

《講演》

ピアサポートの持つ不思議な力

「心の氷が溶けていく感じ」 「初めて言葉が通じた」 新たな物語の誕生「自己否定から自己肯定へ」 経験者の言葉は「違う」

「病気を受け入れることができた」

ピアとは？ 仲間・同輩・対等者

精神障害のある人同士 精神科病院に通院していた人同士 精神障害によって悔しい思い、やるせない思いを経験した人同士 精神障害のある人の家族同士 虐待を受けたことのある人同士 子育てをする親同士

ピアサポートとは、
同様の立場・経験のある対等な仲間同士の支え合いの営みの全て

経験は宝物

- ・私しか経験していないかけがえのないもの
- ・その経験が他の人を勇気づけることがある

経験の語りはピアサポートの接着剤

経験に基づく知識・技術は専門的知識に比べてより实际的・実用的でより包括的な特徴を持つ

ピアサポーター・ピアスタッフとは

自らの人生経験を活かし、ピアサポートの感覚を用いて同様の経験をしている仲間のリカバリーに貢献する仲間

ピアサポーター・ピアスタッフの可能性

- ・新しい支援の形を作る（WRAP、当事者研究）
- ・現場の価値観を変える
- ・地域の価値観を変える（スティグマの払拭）
- ・制度・サービスを変えていく
- ・精神を病んだ人の希望

ピアサポートの意義・価値

- ・リカバリーのきっかけを作り、リカバリーを促進する 経験の価値化・人生の価値化→自己肯定
- ・地域で自分らしく生きる

リカバリーとは

病気や障害にとらわれた生活、生き方から一人ひとりの人生の目標、夢や希望に向けて歩む、自分らしい生き方へ向けたプロセス、旅路。

リカバリーのバトンをつなぐ

リカバリーストーリーを語る⇒リカバリーストーリーを聴く⇒リカバリーへの道を歩む

ピアサポートがあたりまえになると

- ・あたりまえに障害や病気、辛い体験を話せるようになる
- ・あたりまえに障害や病気、辛い体験を聴き合えるようになる
- ・あたりまえに仲間を作り増やせるようになる
- ・あたりまえに仲間同士が支え合えるようになる

ピアサポートの輪をひろげましょう

本人主体：やってみたいこと、やりたいこと、
チャレンジしましょう！

周囲・地域・社会：やりたいことを応援しまし

よう！ ピアサポートをブームでなく文化に！

《シンポジウム》

4 団体の活動紹介、体験発表などがあり、その後、質疑応答がありました。

シンポジスト① 秦野市ぱれっと・はだのピアサポーター

秦野市内を中心に、開設時から活動を開始。3年前からピアサポーターの養成を行っている。現在登録者13名。市委託事業として地域生活支援センター「ぱれっと・はだの」が運営している。

年1回ピア学習会、月1回ミーティング。高校や大学等を訪問し体験発表、地域への啓発活動も。精神科病院や医療機関の患者との交流会。月1回秦野市内の当事者を対象に相談を受けている。年1回全国に体験発表をオンライン発信している。

・発表者 M さんの体験発表

大学受験勉強中の高校3年時に発症。入院がきっかけでデイケアスタッフにピアという物を教えてもらいピアスタッフになった。良かったことは自分の障がいの理解やリカバリーに繋がっていること。困ったことはピア活動での収入が少ないこと。

・発表者 A さんの体験発表

職業指導員としてB型事業所に勤務。職場には同じ障害者であることを周知していないが自然な流れで話をするようにしている。「Aさんの一言があったから頑張ってる」と思ってもらうのが目標。精神障害とは悩める所に醍醐味がある。

シンポジスト② 相模原市精神障がい者仲間の会（あしたば会）

相模原市を中心に、1993年から活動家の当事者が運営。現在会員91名。主な活動は、総会、フリースペースミーと、みんなで語ろう in 相模原、バーベキュー大会、フットサル、新春の集い、カラオケ大会、卓球の集い、普及啓発講演会などさまざまな活動を行っている。

・発表者 S さんの体験発表

25～40歳まで会館の行事などを運営する仕事に使命感と決意を持って働いていた。あしたば会は障害を越えて一般の人と交流できる会。

ご支援を頂きながら会員同士が交流できているのは、地域ネットワークがあってこそと思っている。この度はご招待いただき誠に有り難うございました。

・発表者 H さんの体験発表

大学受験で失敗し、18～32歳まで引きこもっていた。初受診は32歳。もっと早く受診に繋がっていたらと思う。当事者の存在が回復に繋がった。

シンポジスト③ 自立サポートセンタースマイル

入院している患者さんやご家族、支援者に自分の障がいや回復の経験、利用できる地域社会資源を伝えたり、毎月の定例会でお互いの悩みや希望を話し合っている。

・発表者 HD さんの体験発表

障害者施設に通っていくうちに自分と同じ境遇の人を助けたいと思うようになった。行政の人や病院スタッフの人と話せること、仲間と交流できること、活動することで最低賃金以上の報酬が得られることが良い。身体障害、知的障害の人が利用できるサービスが精神障害の人には使えないので改善してほしい。

シンポジスト④ おだわらピアステーション

平成30年に小田原市で精神ピアサポーターの養成が行なわれ、おだわらピアステーションと名付けられた。現在7名が地域で生活する精神障がい者や関連する人を支える活動をしている。

・発表者 Y さんの体験発表

自分より大変な経験をしている人に出会って見なくてピアサポーターになった。良かったことは、信頼できる仲間に出会えたこと、自分のネガティブな経験をポジティブに変えられたこと。行政や皆さんに訴えたいことは、世の中の差別をなくす取り組みを強化してほしいこと。

《参加しての感想》

相川先生自身が小学校でいじめに合い、中学校で精神科にかかったこともあるとのこと。「当事者の声が社会を変える」という言葉に希望を託し、先生の温かい随所での配慮とシンポジストの皆さんの笑顔が美しい、心温まる県民の集いでした。

これからの予定

◆12月サロンあゆみ 交流会

12月15日(金) 13:00~15:00

崇善公民館 第1会議室

いつもと会場が異なります。ご注意ください。

◆12月定例会 SST勉強会

12月19日(火) 13:30~16:30

ひらつか市民活動センターA 会議室

講師 高森信子先生

親が変われば子が変わる。先生のお話は多くの示唆を与えてくれます。愛に富んだ高森先生のお話を聞いてみませんか。初めての方大歓迎！個人的な相談にもものってくださいます。

◆2024年1月サロンあゆみ 心理勉強会

1月19日(金) 13:00~16:00

ひらつか市民活動センターA 会議室

講師 井上雅裕氏

心理的な面から当事者の今の位置を理解し認めて、次のステップを考えます。

◆2024年1月定例会 新年バス旅行(日帰り)

日程 1月23日(火)

行き先 日本平・久能山方面

詳細は次回12月号でお知らせします。

当事者の皆様、ふるってご参加ください！！

◆2024年2月定例会

平塚市障がい者団体連合会結成50周年記念行事に参加します。

「記念講演と沖縄民謡のしらべ」

日時 2月18日(日) 13:00~16:00

会場 平塚市中央公民館 大ホール

講演 『災害時も日常も安全安心な「地域共生社会」をめざして』

講師 鍵屋 一(かぎやはじめ)氏

又村 あおい氏

沖縄民謡のしらべ さきぬまシスターズ

今からご予約にいられておいていただけますように。

そのほかのお知らせ

① 「親族後見予習セミナー」

日時 11月29日(水) 13:00~15:00

内容・成年後見制度の概要

- ・成年後見制度の申し立て・手続きの方法
- ・必要書類の集め方や記入の仕方
- ・後見人の具体的な仕事内容

定員 30名 申し込み順

受付 10月23日より

② 「これからの人生を考える時、任意後見制度を学ぶ」～制度の仕組みと留意点について～

日時 12月14日(木) 14:00~16:00

定員 48名 申し込み順

受付 11月6日より

③ 「税理士による相続の話」～相続の仕組みと手続き、相続登記の義務化(令和6年4月から)、相続と成年後見制度～

日時 令和6年1月25日(木) 13:30~

定員 35名 申し込み順

受付 12月4日より

いずれも 参加費：無料

場所：平塚栗原ホーム3階大会議室

申し込み・問い合わせ先：平塚市成年後見利用支援センター

電話 0463-35-6175

対象：平塚市在住、在勤、在学の方

*80-50時代の今、その時になって慌てないように早めの準備が必要です。知識は力となり安心となります。今から学んでおくことをお勧めします。

精神保健福祉ボランティアグループ

こんぺいとうのお知らせ

11月25日(土) 11:00~14:00 サロン

参加費 200円 福祉会館調理室・いこい室

12月9日(土) 13:30~15:30 お茶会

参加費 100円 中央公民館3F和室

